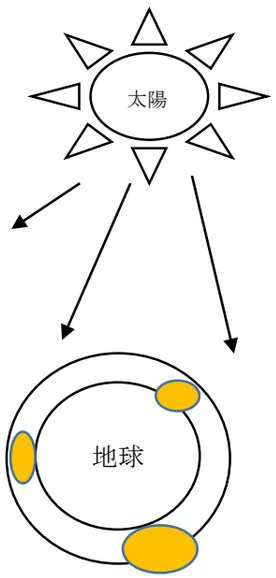
えんちょう先生の わくわくだより NO．５ 5／18

紫外線に注意しましょう！



先日の朝のテレビ放送で、「あまりに紫外線が強すぎて、腕に赤い発疹ができたり、顔が腫れあがって真っ赤になってしまう様な事が出てきています」と聞こえてきました。紫外線については、この園でも、テレビで紫外線情報が流れる以前から気を付けてきました。まだ、「夏は、真っ黒になって遊ぶと冬に風邪をひかない」「こどもは、お日様に当って元気に遊ぶのが当たり前」・・の意見が主流だった平成１１年、岩村保育園（合併前）の職員が中心になって、その道の研究者である柴田英俊先生を、九州の福岡からお招きし、富田会館で紫外線についての勉強会をした事を思い出します。当時、自動販売機やクーラーなどを急に冷やすために使っていたフロンガスが地上に出て、１５～２０年かかって、地球を取り巻くオゾン層に到達。その事が原因でオゾン層に穴が開き、有害な紫外線が降り注ぐようになってきた・・・と言う説です。今、オゾンホールについては、いろんな説もある様ですが、確実に紫外線が強い事は確かです。当時は、テレビで紫外線情報も流れていなかったし、業者に問い合わせても、今こどものかぶっている様なたれつき帽子も販売されていませんでした。よって、各家庭にお願いし、通園帽子に、ミニタオルを縫い付けてもらったり、プールの上には農業用寒冷紗を張ったりして、紫外線からこどもを守る取り組みをしたものです。それから３年位してからだったと思います。学研さんが、「先生、たれつきの帽子ができました。岩村は取り組みが早かったですねえ」とおっしゃり、それから、園帽子は今のたれつきの帽子に変わっていきました。たれのある帽子は脳に繋がる大事な器官の集まるこどもの首の後ろを守る為。特に０歳～１０歳までのこどもに悪影響があるのが紫外線Ｂ波。午前１０時～午後２時までの紫外線が最も強いと言われています。皮膚癌、白内障、免疫力低下を引き起こし、特に細胞分裂の盛んなこども達は遺伝子が傷つくと、それがコピーされて増えていってしまうそうです。こども達には、「外では必ず帽子をかぶる事、ままごと等はお日様を背に座って遊ぶといいね」と各クラスで話をしています。外で遊ぶ事はこどもの成長にはとても大事だけれど、昔と今では、太陽の光が違う！事を忘れない様にしながら、遊ばせていきたいと思います。５月は夏と同じくらい紫外線が強いです。これから心配になる熱中症と合わせて、こども達の健康を守っていきたいと職員の中でも確認をした事です。

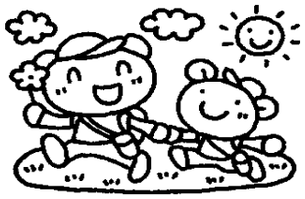


有害紫外線Ｂ波は・・・

＊こどもの水ぶくれの出来るような日焼けは大変危険です
＊小さいときから日焼けを繰り返すと、大人になった
　時の健康が心配、海や山に出掛けるときは、注意を！

★こどもの園帽子のゴムを一度確かめて下さい。
せっかく被っていても、ゴムがのびてしまって、肩や背中の方へ行ってしまっている子も多いです。園外中、風が強い日は、帽子が吹き飛ばされ、とっさに道路に飛び出るといった危険にもつながりますので、宜しくお願いします。

５／２０日は、みんなで春の遠足だね



（５／１６日の保育の中から・・・）

岩村城への遠足を前に、こども達に、その歴史について話をしました。岩村で暮らし、その土地の昔、特に岩村は、日本史の中でも教育の重要地点であった事などを知って育つ事は、こどもの成長にとっても大事な事だと思います。

『岩村には鎌倉時代から明治時代まで７００年もお城があったんだよ。その間に、お殿様は何人も変わりました。日本の高い山の上にある３つのお城の一つが、岩村城です。みんなが写真を写す太鼓櫓は、時計のなかった時代、岩村の人達に時間を知らせるために、太鼓を叩いて時間を知らせたそうです。岩村城には１７の井戸があって、お殿様の御飯を作る為に使われていたのが霧ヶ井戸、この井戸はどれだけ日照りが続いても水が涸れてしまうことはなかったそうです。敵が攻めてきた時には、お城に秘密にしまっておいた大蛇の骨を投げ込むと、むくむくと霧が湧き出、敵の行方をはばんだといわれているんだよ。岩村は３万石と小さなお城だったけど、昔から、勉強をすることの大事さに力を入れ、知新館には、りっぱな頭のいい学者さん達が勉強に来ました。佐藤一斎さんは、「小さい頃からいっぱい遊んで、お話を聞いたり、本を読んだりすると、りっぱな大人になれる。　大人になってもいっぱい勉強すると年を老いてからまたまた、りっぱになるよ。年をとってからも勉強をした人は亡くなってからもみんなに誉められるひとになるよと言っているよ」年少さんが到着する下田歌子勉学所というところは、歌子さんのお父さんの書斎でした。昔は、男の人は、勉強を許されたけど、女の人は、御飯をつくったり、こどもを育てればいい・・と男の人と一緒に勉強が出来ませんでした。歌子さんのお父さんは、知新館の先生だったけど、歌子さんは、知新館に入れなかったので、この勉学所で、おばあちゃんに字や計算を教えて貰ったり、お父さんの難しい沢山の本も自分で読んで勉強したそうです。そして、大きくなって、東京に女の人も勉強が出来る実践女子学園を作った人です。その他、みんなが大きくなって、勉強すると教科書に出てくる三好学さんは、桜やショウブなど、植物の研究で、世界的に有名な人も、岩村から出ているんだよ。みんなが登っていくとわかるけど、沢山の石垣が残っています。この石は、中津川の上流から、山や坂を越えて、１４キロメートルもの長い道のりを、農業をやっていた人達が担いで持って来て積んだものだよ。今の様に車のない時代、どれ程、大変で、難儀をしたのか、高い石垣を見て、思ってみて下さい』・・・こども達は、とても静かに上手に話をきいてくれました。こども達に歴史を話すのは難しく、どこまでわかったのかは解りませんが、そうした歴史ある岩村城への遠足です。親子で、昔に思いを馳せながら登ってみて下さいね。

おねがい

- **遠足は、速さを競うものではありませんので、親子で楽しみながら、登って下さい**
- **頂上へこどもだけ先に来てしまうと、石垣も高く危険ですので、到着は親子でお願いします。けがや事故のない様に、楽しい遠足にしましょう！**
- **今年度の遠足には、保護者会役員さんにもご協力願って、オリエンテーリングを行います　役員さんには、宜しくお願い致します。**